

マスタープランの 早期見直しを



新井賢次

都市建設課長



準備して確実に
実施していきたい

質問 令和5年度施政方針の中で、土地利用の推進・市街地の形成として、新たな産業団地候補地の概要計画の策定等により、町内における企業立地の促進を図るとしている。今後、産業集積や転入者増加等の促進のためには、環境及び農業との調和に配慮しつつ、市街化区域の拡大、工業用地の確保等を進める必要があると考える。そのために、まず、できるだけ早期に長期的な玉村町の都市づくりの基本方針を示す「玉村町都市計画マスタープラン」の見直しに着手すべきであると思うがどうか。

答弁 町長 玉村町の都市づくりの方針に基づき進めている。現在は、高崎玉村スマートIC北地区工業団地の造成工事を進めている。また、道の駅玉村宿南側に観光交流拠点公園の可能性調査や旧両水敷地を含めた一帯の市街化区域編入の検討も進

めている。現行のマスタープランも策定後から約10年になる。時期を見ながら、次期マスタープランの準備を始めて行きたい。

質問 マスタープランは上位関連計画である第6次玉村町総合計画の改定に併せて見直しが必要であるとしている。令和3年にその総合計画が策定されており、その中で、令和5年度に個別計画や施策の見直し、修正を行うとしている。町は、早期にマスタープランを見直すべきではないか。

答弁 都市建設課長 マスタープランは、総合計画策定の後に決めるべきものであり、また、社会情勢が著しく変化したときや新たな課題など、計画の見直しが必要になったとき等に策定する



玉村町都市計画マスタープラン(平成24年4月策定)と第6次玉村町総合計画(令和3年3月策定)

ことになっている。令和5年度にしっかりと準備をして、その後、確実に実施していきたいと考えている。その際には、立地適正化計画に基づいた公共施設の適正配置及び公共交通対策、水害対策としての避難誘導関係等も含めた町の土地利用を総合的に考えていく必要があるため、じっくりと行っていきたい。

こんな質問もしています

・高崎玉村スマートIC北地区工業団地について・新たな地域おこし協力隊について・ネーミングライツ(施設命名権)の導入について

下水道未接続家庭への 早期改善を



備前島久仁子



町長

課が連携しながら
取り組んでいく

質問 下水道整備区域でもまだ下水道接続をしていない世帯が多い。浄化槽の維持管理や悪臭などから解放されることを住民へしっかりと示して、未接続家庭への早期改善を望む。

答弁 町長 接続工事に関する申請が232件あり、接続率は86・3%から87・8%に上昇した。上昇分全てが支援事業によるものではないが、接続率向上に大いに貢献したと認識している。

質問 し尿と浄化槽汚泥の委託料は、年間5000万円程度かかっている。接続率を上げることで委託料は減り、下水道料を徴収できる。上下水道課と環境安全課が連携し、早期接続に取り組むべきではないか。

答弁 町長 情報を共有し、各課がしっかりと連携しながら早期接続をしてもらえよう取り組んでいきたい。

新しい地方創生の取組は

質問 令和5年度予算編成方針の重点項目の一つとして、「アフターコロナを見据えた施策の展開」を掲げたという点だが、具体的な内容は。

答弁 町長 コロナ禍による社会の閉塞感や孤立感を解消し、新たな地方創生を推進するため、花火大会や産業祭、町民体育祭、ふるさとまつり等を開催し、町全体を活性化していく。また、文化センター設立30周年や重田家住宅築140周年記念事業等を行い、文化的活動も促進していく。

子供たちがキャンプに 親しむチャンス

質問 キャンプ場の利用者が増えており、夏ばかり



マナーを守ってキャンプを楽しむ利用者

・地域コミュニティーの必要性和活性化のための方策は

こんな質問もしています

でなく秋から冬にかけても大変人気がある。角淵キャンプ場を活用し、子供たちがキャンプの楽しさを知るきっかけとして、キャンプ教室を実施する考えはあるか。

答弁 町長 角淵キャンプ場は、完全予約制にしたことで利用者のマナーが向上している。キャンプは火のおこし方やテントの張り方などを学びながら、自然災害時の備えにもつながるため、講座メニューの一つとして取り入れていきたい。